

12 氏名：藤井 涼佑

所属：知能情報工学分野

発表学会：SAI-NLP 2019: The 14th International Joint Symposium on Artificial Intelligence and Natural Language Processing

開催日：2019/10/30(水)-2019/11/1(金)

場所：チェンマイ タイ

題目：手描きスケッチどうしの統合的な類似指標の提案

感想：手描きスケッチどうしの類似度に関する定量的比較方法について発表しました。これまでの研究では描き順のみに焦点をあててきましたが、今回では描き順と最終形を考慮に入れた新しい類似指標を提案しました。

今回の国際学会は初の海外での国際学会であり、慣れない環境での発表である上に参加したセッションは1日目で朝早い時間帯でしたが、無事発表することができました。質疑応答では2点大きく議論がなされました。特に、描き順と最終形は一般的に使われるタスクが異なり、描き順は次状態の予測に、最終形は描かれたオブジェクトの識別に使われるというコメントは非常に興味深いものでした。なぜなら、最終形の類似度の副作用について考慮していなかったことに気づかされたためです。このことから、物事を向上させるために新しいものを使用する場合、副次的な影響や一般的な使われ方がどのようなものであるか一度調べる必要があるという知見を得ました。また、言いたいことが100%伝わらない中では、図やグラフのデータは非常に重宝されることを身に染みて実感しました。

このような新しい知識、見方、考え方に触れる機会である国際学会に機会があれば再び参加し、議論を交えたいと思いました。